

## お茶対策分科会

---

---

# お茶対策分科会 ① 概要

## テーマ：茶栽培における気候変動影響への適応

京都府、滋賀県、奈良県は、「宇治茶」、「土山茶」、「大和茶」等の原料茶生産地域であり茶の生産活動は盛んであるが、これらの茶栽培地域は、瀬戸内の気候帯区分に位置するため、夏の高湿少雨傾向が強く温暖化の影響が比較的顕在化しやすい。また、作付時期が変更できず、品種改良に時間がかかる茶栽培への気候変動影響調査データは不足している。

本分科会は、気象予測情報および気候変動影響予測情報等を活用し、地方自治体、茶業研究所、生産者等の連携によるアクションプラン立案を目指す。

### <アドバイザー> ※敬称略

座長：京都先端科学大学バイオ環境学部食農学科  
教授 藤井 孝夫  
副座長：京都大学大学院農学研究科  
教授 白岩 立彦

### <オブザーバー>

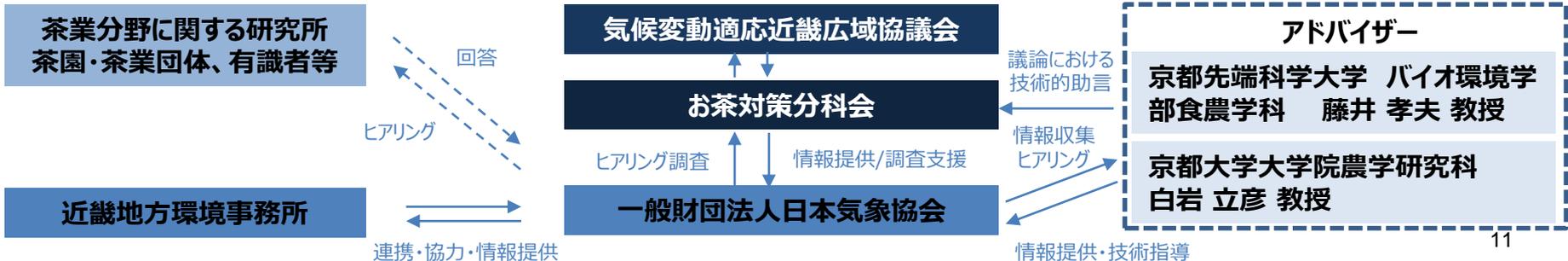
未定

### <メンバー>

令和2年9月末現在(※は予定)

種別	メンバー
地方公共団体	滋賀県、京都府及び関係市町村、奈良県
地域気候変動適応センター	滋賀県気候変動適応センター
地方支分部局	近畿農政局、近畿地方整備局、大阪管区气象台
研究機関、企業 ほか	国立環境研究所、森林総合研究所、茶業分野に関する研究所、地球温暖化防止活動推進センター、(各府県の生産者、茶業に関する団体)※

### <実施体制>



## お茶対策分科会 ② 課題認識と想定されるアクション

### これまでの気候変動影響

- ・夏季の高温・少雨による二番茶以降の生育抑制などが各地で顕在化しつつある（第2次影響評価報告書（テクニカルレポート）（案）、中環審、2020年3月）
- ・気温上昇によって一番茶の萌芽が早期化していることが指摘されている（地域適応コンソーシアム関東地域事業委託業務 最終報告書 2-1 夏季の高温・少雨による茶栽培への影響調査、環境省、2020年3月）
- ・病害虫の発生時期が早まり、防除適期が変化していることが指摘されている（地球温暖化適応技術の確立と普及を目指して～茶のクワシロカイガラムシ防除のための散水時期決定マニュアルの作成～、地球温暖化適応策推進協議会、2017年3月）

### 想定される将来の気候変動とその影響

- ①茶園での作業への影響  
春～夏の気温上昇が急になりつつあり、数日程度と短い茶の摘採期間がさらに短縮されることによって、摘採作業者の労働負荷が増大する。
- ②茶の病害虫発生への影響  
害虫のふ化は積算温度に依存する。炭疽病、黒葉腐病などは降雨で助長される。
- ③萌芽期早期化による凍霜害リスク影響  
冬季の高温による萌芽期の前進と、最低気温出現の関係により、凍霜害リスク上昇の可能性がある。
- ④夏季の高温・少雨による生育への影響  
盛夏期の高温少雨により茶樹が水分不足となり、新芽のもととなる越冬葉層※の減少や、新芽の発育不良が発生する可能性がある。（※栄養を蓄え、春まで休眠期間に入る葉層）  
(葉層：枝の先端から下方にかけての葉がついている部位)

### 現状の課題認識

- ・気候変動による収穫適期短縮に関連する、茶園作業者の労働負荷の軽減
- ・茶栽培に影響を与える気候変動情報、気象情報、病害虫等の情報共有の推進
- ・気候変動の影響による茶の生育不良(品質低下、収量減少)の抑制

### 想定される適応アクション

- ・多品種化等による摘採期間の分散化
- ・将来の気候変動影響をふまえた新たな茶の活用方法の検討
- ・気象観測情報の共有の推進及び活用方法の検討
- ・生産農家に必要となる病害虫等の情報の共有や協力体制の整備拡充



茶園に設置されている防霜ファン  
出典：鹿児島県ホームページ  
<http://www.pref.kagoshima.jp/ag11/pop-tech/zenbu/0878.html>



害虫（クワシロカイガラムシ）の寄生状況  
出典：京都府ホームページ  
[http://www.pref.kyoto.jp/chaken/mame\\_byougai.html](http://www.pref.kyoto.jp/chaken/mame_byougai.html)

# お茶対策分科会 ③ 令和2年度実施計画

## <実施業務及び手法>

### 1) 過去及び将来の気候変動影響に関する調査

過去の影響や近畿地域特有の課題は、ヒアリング調査や文献調査を行う。将来の影響については、既存文献の整理に加え、気候シナリオから得られる情報を分析・整理する。

### 2) 分科会構成員の問題意識の把握

気候変動による茶栽培への影響について、分科会構成員へのアンケート調査を実施する。アンケート結果を分科会で共有し、得られた意見を元にヒアリング等による追加調査を行う。

### 3) 問題意識を踏まえた想定される適応オプションの検討

前項の調査により把握された問題点を踏まえ、トレードオフも考慮しつつ想定される適応オプションの抽出・整理を行う。

### 4) 実行可能性のある適応オプションの抽出

前項の調査により抽出された適応オプションについて、広域連携の視点も踏まえて実行可能性の検討を行う。

### 5) 分科会テーマに係る調査計画の策定

前項までの検討を踏まえて、アクションプラン策定に向けた2年度目及び3年度目の調査計画を策定する。

### 6) 気候変動予測、モニタリング、実証試験の必要性検討

次年度計画案の作成において、地域のニーズを踏まえて実施の必要性を検討する。

## <令和2年度 スケジュール※>

※スケジュールは今後調整して確定する。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	▲ 10/7 第4回広域協議会			▲ 1/〇 お茶対策分科会	▲ 2~3月 第5回広域協議会	
既存知見およびデータの収集・整理						
ヒアリングの実施			適応オプション整理、アクションプラン骨子検討			
		分科会構成員へのアンケート実施	アンケートとりまとめ			
				2年目以降の調査計画案作成		

## お茶対策分科会 ④ 実施計画（令和2-4年度）

活動	令和2年度	令和3年度	令和4年度
<b>課題整理 調査計画 の策定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域協議会等で得られた意見の整理</li> <li>・アンケート及び会合等による問題意識把握</li> <li>・ヒアリング結果やアンケート調査をもとに調査計画案を作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各適応オプションに関する広域連携の具体的手法及び課題抽出</li> <li>・実行可能性検討に向けた適応オプションの整理結果の精査（コベネフィット、トレードオフ等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各適応オプションの広域での実施における課題対応策の検討</li> </ul>
<b>調査・ 情報収集</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶栽培・病害虫等に関する文献調査・データの収集および解析</li> <li>・顕在化している影響や問題意識を把握するため、分科会構成員に向けたアンケート調査</li> <li>・茶業関係者へのヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会・ステークホルダーのニーズを踏まえた、初年度収集情報の分析継続</li> <li>・各適応オプションの広域における実行可能性に関する調査・ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果とりまとめ</li> </ul>
<b>アクション プラン</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行可能性のある適応オプションの抽出</li> <li>・アクションプラン骨子の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域連携可能な適応オプションの具体化</li> <li>・アクションプラン案の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進体制、スケジュール等の具体化</li> <li>・広域で実施する適応オプション、アクションプランの策定</li> </ul>